

佐藤 博 議員

無所属クラブ

市長の政治姿勢及び行財政運営 について2期8年間の総括を

問

市長は、6月定例議会において、早くも3選出馬を表明された。

地方創生、地方主権の時代を迎え、首長の行財政運営能力、実行力が自治体の繁栄を大きく左右する。

- (1) 市長のリーダーシップ、実行力により「市が変わった、困難な問題が解決できた、市民の暮らしも良くなり市が発展した」と誇れるまちづくりに貢献したと考えられるものはあるか。
- (2) 努力したが、実現までに至らず心残りとする考えの政 策内容はあるか。
- (3) 一番残念に思うのは、

155号線と前ヶ須東勘助地区の区画整理事業である。難しいと放置され、いまだ155号線の南進計画は進まない。金魚養殖も不況時代を迎え、土地が売られ、行きどまり道ばかりになっている。市長には深く反省してもらいたい。

また、十四山地区を発展させるためには、富吉駅と結ぶ道路問題を将来的に真剣に考えること。知恵を出し、効果的・効率的な路線の調査、愛西市・県との協議もなく、市民の利便性を考えることなく、多額の事業費を理由に困難と決めつけている。補助事業でやればうまくできるのでは。

元気で活力を生み出す
まちに前進できた

答 市長

(1) 本市を総合的に元気にまち、活力を生み出すために前進できた。

主な施策としては、都市基盤整備、湛水防除事業の中での農村・農業の整備計画、小中学校の環境整備、防災・減災対策、子育て支援などを充実させることができたと考えます。

(2) 市街化面積の拡大で、調整区域から市街化への編入問題と考える。

(3) 県から155号線の南進計画を事業として進めていこうと大変力強いお話をいただいた。知恵を出し、地権者に御協力いただき、議員にも御指導をいただきながら進めていきたい。

富吉への善太川に対する橋の問題は、新しい橋を建設するということが同時に、優先課題として老朽化した橋梁を長寿命化とともにやっつけていかないとけない。

当面する重要な行政課題への
取り組みについて尋ねる

問

26年度から後期5年間の市総合計画は重要である。

(1) この総合計画と併せて、取り組んでいきたい具体的な政策目標はあるか。

(2) 国土強靱化について、海抜ゼロメートル地帯の本市で一番大事なことは、市庁舎など公共施設の建設の場合、海抜プラスにかさ上げすることであり、財政支援を陳情しておいた。

また、国道と市内の幹線道路も海抜プラスにかさ上げするように陳情した。

また、リニア新幹線事業の中から約80万㎡の土が出る。この土を活用して、木曾岬干拓を堤防までかさ上げしてもらおうことを検討すべきと考える。

国土強靱化について、市は具体的にどのようなことを考えていくべきか。

(3) 新庁舎建設問題について、訴訟事件にまで至った経緯、経過また、その原因を市民に説明をする必要が

あるのではないか。

一番の課題は新庁舎建設事業
早期竣工を図ってほしい

答 市長

(1) 一番の課題は、新庁舎の建設事業である。震災の教訓を生かし、早期竣工を図ってほしい。

2つ目は、それに関連する南海トラフ巨大地震の被害予測に対して防災・減災計画をしっかりと進めていくことである。より強い富市をつくらせていきたい。

(2) 本市は港湾の恩恵を大いに受けている。河川・海岸がしっかりと強化されないと、その内陸面は大変厳しい状況になる。県と一緒に、河川・海岸堤防の津波対策として整備促進をしていく。

(3) 住民監査請求から住民訴訟へと至ったことは、大変残念である。このことは司法の場で本市の正当性を申し上げているところである。いずれ公正な判断をいただけることを確信している。